

第 41 回 START プログラム (ニュージーランド)

2017 年 3 月 10 日から 3 月 26 日までの約 2 週間、第 41 回 START プログラムに学部 1 年生 30 名が参加し、タフナー ロバート ホースト (TAFERNER ROBERT HORST) 准教授 (総合科学研究科) ら引率教職員 3 名と共に、協定大学のオークランド大学 (ニュージーランド) に短期留学しました。

留学先のオークランド大学教育学部において、学生たちは 3 グループに分かれ、午前中はほぼ毎日 ESL (English as a Second Language) クラスでの授業を受けました。3 名の担当教員から英語の語彙や発音、文法、会話表現などに加え、最終プレゼンテーションに向け、資料の収集方法、ドラフトの書き方、プレゼンの進め方等も学びました。また、午後にはオークランド大学教育学部の教員によるニュージーランドの歴史や教育、文化を学ぶ講義や、オークランド大学の現地学生向けの正規授業へ参加しました。当初は英語での授業に戸惑いを見せ、発言や質問することを躊躇していた学生達でしたが、積極性や質問することの大切さを学び、徐々に活発な授業展開がなされるようになりました。

その他にも、小学校での日本文化紹介の発表では、学生たちの事前準備と前述の指導教員によるブラッシュアップにより大成功を収め、学生と児童共にとても貴重な異文化交流体験となりました。

また、学外活動として博物館や休火山、開拓移民時代を再現した体験施設をはじめ、オークランド郊外にあるニュージーランド特有の雄大な自然を見学しました。学生たちは、ニュージーランドの歴史と文化へ多角的に触れることで、日本での事前学習とは比較にならないほど多くのことを学ぶことができました。

留学の集大成である、ニュージーランドに関する最終グループプレゼンテーションでは、日本での事前準備に加え、現地学生やホームステイ先の家族へのアンケート調査や、学生たち自身の現地体験談を行うなど、各グループで工夫を凝らした発表を行いました。発表後には活発な質問や発言も見られ、オークランド大学の先生方からも好評を得ることができました。

研修中は、全学生がホームステイを体験しました。ほとんどの学生が初めてのホームステイ体験であり、滞在前はホストファミリーとの生活に不安や悩みを吐露していましたが、慣れない英会話に四苦八苦しながらも積極的に打ち解けるよう励んだことで、約 2 週間を有意義かつ快適に過ごすことができた様子でした。帰国日にホストと最後に言葉を交わす際には、今まで経験したことのない環境での生活を優しく支えてくれたホストファミリーへの感謝や別れを惜しむ気持ちから涙する学生も多くいました。ホームステイでは、英会話や異文化学習に加え、国や人種を超えた人と人との繋がりや温かみに触れることができ、

とても貴重な経験をすることができました。

帰国後の事後研修では各学生が英語で3分プレゼンテーションを行いました。「帰国後も英語を学び続けたい」、「もっと長期の海外留学に挑戦したい」、「STARTプログラムの経験を大切にしたい」などと振り返る学生が多く、本プログラムでの経験を良い契機として、今後の学生生活や将来の目標をより具体化し前向きに行動していくという決意が見受けられました。



ESL クラスの様子



現地学生との交流の様子



小学生への日本文化紹介



開拓移民時代を再現した体験施設での
学外活動